

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ゆうあいホーム ひだまりの家
(ユニット名)	A棟
所在地 (県・市町村名)	長崎県佐世保市
記入者名 (管理者)	久保川 輝彦
記入日	平成 20 年 11 月 15 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	現在ひだまりの家の理念は「もっと優しく、もっと温かく」である。まだ地域の中で、この理念を生かせていない。子供110番や安全パトロール隊へ入会しており、今後も地域へ出て行くようしている。	○	現在取り組みを始めて1年であり継続
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理事長自ら新人研修やひだまりの家会議で説明してもらい、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	○	今後とも話す機会を設けていく。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の方々には理解されている。地域の方々には運営推進会議を通して一部分ではあるが浸透してきているが、まだ不十分である。	○	地域の方に理解してもらえようしていきたい。新聞などの活用地域とのコミュニケーション
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	出勤中や洗濯物干し、利用者様との日光浴・散歩等において通行される方々には、必ず挨拶や会話を交わすように心掛けている。相手方も声かけしてくれたり、野菜を頂く事もあるが、立ち寄りまでには至っていない。	○	これからも笑顔で挨拶を行っていく。又、ホーム前にベンチを置き地域の方々との交流の場を設けている。(スクールゾーン及び近所の方々の迷惑にならぬよう佐世保警察署よりベンチ設置時間規程あり)今後も気軽に立ち寄り頂けるよう努めていく。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭り、敬老祝賀会等や学校の催し物(運動会・お遊戯会・入学式・卒業式)等にも積極的に参加して交流を深めている。また、ホームの催し物にも地域の方々をご招待している。	○	今後の課題として、地域活動(ふれあい教室・お茶の間トークなど)に出来る限り利用者様全員が参加し地域の方々と交流を深めていきたい。

ゆうあいホームひだまりの家 A棟

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の行事(夏祭り)及び準備などには積極的に参加している。又、運営推進会議においても話し合い、民生委員さんとの連携を取っている。	○	利用者様へのレクリエーション等に地域の高齢者様も気軽に参加できる場を設けていきたい。また、どこにどんな方がいらっしゃるのかをマップ状にして把握していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人一人に自己評価をしてもらい、その後ミーティング等を行っている。また、外部評価の結果をスタッフで話し合っているが実行としては、まだ不十分である。	○	改善案をもとに、話し合いで終わるのではなく実行していけるようにしたい。また、新しい職員も多いので自己評価・外部評価についてもっと勉強する場を設けていく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、話し合った内容及びご要望やご意見をスタッフへ伝え全員で話し合いを行い方針を決めサービス向上に生かしている。	○	これからも継続していきながら、他の方や多種の方々への参加も呼び掛けていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当職員の方とはアクシデント時においても報告・適切なアドバイスを受けたりしている。又、介護保険で分からない点も相談している。又、現在生活保護の方が入所されているため、生活保護課とは連携を取っている。	○	これからも連携を図らせて頂き、指導・アドバイス等で利用者様・家族の方々へサービスの質の向上に取り組んでいく。又、市町村主催の研修には、参加させてもらっている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修委員会を立上げており、新人研修等において学ぶ機会を設けているが、現在成年後見制度を利用したことはない。	○	これからも勉強会などに参加していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外の研修において学ぶ機会を設けている。現場サイドにおいては、スタッフ全体の動きを各スタッフが見える作りなので、虐待防止はできている。又、入浴や着替えの際、利用者様の身体にアザや傷等がないかチェックするように心掛けている。	○	これからも虐待防止に努めていく。身体的な虐待はもちろんのこと言葉による虐待防止に今後とも努めていく。

ゆうあいホームひだまりの家 A棟

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所時や家族との面談の機会を利用して説明の機会をつくっている。</p>	<p>○</p> <p>今後も十分な説明を出来るようにしていきたい。又、何でも話して頂けるような雰囲気作りや信頼構築に努めていく。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者様とのコミュニケーションを大切にしている。苦情がでたときには担当スタッフが中心となりスタッフ間で情報を共有している。しかし外部へ話せる機会は少ない。</p>	<p>○</p> <p>苦情が出た場合には、利用者様に納得、安心して頂くことが大切であるので継続していく。外部窓口をもっと活用していきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族面会時には必ず現状報告を行っており、又、2・3か月おきの家族との面談の際にも報告している。金銭面に関しては、内容を提示し、サインを頂いている。病院受診の際は必ず家族へ報告している。</p>	<p>○</p> <p>面会に来られないご家族のためにも、月1度のひだまり新聞を発行している。金銭管理においては出納帳のコピーと領収書を渡しており今後とも継続していく。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱設置しているがほとんど活用されていないが、ご家族とのコミュニケーションをはかり、不満・苦情があったときはすぐに対処を行っている。運営推進会議時に家族代表の方から意見を伺っている。</p>	<p>○</p> <p>今後もコミュニケーションを図り継続していきたい。又、面会の少ない家族の方からの意見もお伺いし反映していきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回の会議を開催し職員が不満に思っていることや疑問に思っていることを言える様にしている。</p>	<p>○</p> <p>問題が発生した場合は、頻回に話し合う機会をもっていきたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>1日に最低人数及びその時必要な人員はスタッフの協力のもと確保できている。</p>	<p>○</p> <p>今後も調整していける環境づくりをしていきたい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職を最小限度に抑える努力をしている。異動がある際は、利用者・家族に説明し、辞令から異動日の間までに代わる職員と一緒に説明し異動後も顔出しや異動先への外出支援を行い利用者へのダメージを防いでいる。</p>	<p>○</p> <p>これから先も異動や離職を必要最小限を図り、利用者様・家族の方々へ不安なく安心した生活を送って頂くように心掛けていく。異動の際は、職員一丸となって利用者へのダメージを防いでいく。</p>

ゆうあいホームひだまりの家 A棟

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修委員会にて年間研修表を立てており、職員のレベルアップや育成を図っている。又、職員にはどんな研修を受けたいかを聞き、その意見を出来る限り反映させている。</p>	○	<p>もっと様々な研修会に参加できるように調整していきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営推進会議や勉強会・研修において交流する機会を設けている。又、行事に招待したりされたりと交流を深めている。</p>	○	<p>これからも積極的に交流を図っていきたい。社会福祉士の県北の集いに参加して他の施設や行政の方との交流を図っている。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>法人が5ユニットある為、管理者同士や主任、副主任間での意見交換を行っている。休憩室の確保と休み時間の徹底。国内外のリフレッシュ旅行を実施始めた。</p>	○	<p>お互いに助け合いができるようにスタッフ間の交流を図る。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>各職員の状況は把握しており、給与面や役職の昇格などで対応している。</p>	○	<p>そのためにも法人内外の研修に積極的に参加していき、向上心を持ってレベルアップしていく。</p>
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人をよく知るためにも日頃より利用者様に声を掛け話を聴く努力をしている。</p>	○	<p>忙しい時は、あまり話を聞く余裕がなく悩みを見落としている可能性があると思われる。もう少し余裕を持って接する努力をしていく。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の方と話す機会を作り、求めていること等を聞きそれを介護へ活かしている。家族は、個々で悩みの内容も異なるので小さいと思われる悩みでも親身に耳を傾けるように心掛けている。</p>	○	<p>個別に話す機会が少ないと思うので増やしていきたい。また、家族の方へ適切なアドバイスが出来るようにしていきたい。</p>

ゆうあいホームひだまりの家 A棟

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来るよう心がけている。	○	今後も利用者様・家族の方々とのコミュニケーションをはかっていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームでは取り組みは出来ているが、通所では努力しているが上手くいっていない。	○	通所介護利用を家族に勧めるがいきなり入所されるケースが多いのでこれから通所介護利用を勧めていきたい。しかしグループホーム待機待ちはされるも通所は断られることが多いのが現状である。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人が出来ることはなるべくしてもらい見守り・声かけに心掛けている。日常家事を通して利用者様から学ばせていただいている。	○	今できること・・・から・・・もっとできるようにと工夫していきたい。一緒に行動し活していき今後も喜怒哀楽をともにしていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの行事への声かけを行っている。病院受診の付き添いも協力して頂いている一部の家族もいる。	○	一部の家族だけでなく、全利用者様の家族に来ていただけるよう図っていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事を開催する時には、家族にも参加していただけるよう協力をお願いをしている。	○	今後ともホームでの行事開催を家族の方々へ声掛けを行ってきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様や家族の方々などより情報を得るようにしている。地域の行事の参加することによりお付き合いのあった方との交流があった。	○	出来るのであれば、電話を掛けさせて頂いたり、手紙を書いたり来所して頂いたり出かけられるように支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	席や部屋を入れ替えたり、他の利用者と馴染めない方には職員が間に入り、きっかけを作るようにしている。又、レクリエーションの中に自己紹介等を入れたり一緒に作業したりする機会を増やしている。	○	これからも利用者様同士のコミュニケーションが取れるように図ってきたい。

ゆうあいホームひだまりの家 A棟

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	挨拶程度しかできていない。	○	定期的な(年に1・2回)連絡をいれたり、近くに行った場合、立ち寄ってあいさつをしていく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で、利用者様のやりたい事や今までの趣味・特技等を理解し、レクリエーションや外出支援・生活支援に取り組んでいる。	○	入浴施行中等は、よく利用者様がお話をして下さるので、コミュニケーションを図るいい機会なのでこれからも大事にしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報が少ないため、把握できていない。	○	本人、家族、知人からの情報を集めていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活の中で把握している。それを申し送りなどで全員把握を務めている。	○	今後もスタッフ全員で把握できるようにしていく。
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族やスタッフとの話し合いをもとに必要な場合は主治医・医療関係者との意見交換を行いケア計画を作成している。	○	今後はもっと生活支援に力を入れたアセスメント表・ケアプラン表を取り入れていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画を見直している。また、入院されたりADL低下と変化が生じた場合は臨機応変に現状に即した新たな計画を作成している。	○	今後とも、利用者にあった介護計画をたてていきたい。特に生活支援に力を入れていきたい。

ゆうあいホームひだまりの家 A棟

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の記録は、些細なことでも利用者様の声で記録するように努めている。	○	今後とも記録内容の充実を図っていき利用者様のケアに生かしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の要望を聞き入れ、できるだけ個別に対応できるように努力している。	○	今後も個別に対応していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	交流を持つように努力している。消防・教育機関等に協力を得ている。	○	今後ともボランティアの呼びかけ、さまざまな地域活動へ参加していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他の事業者までには至っていないが同法人との交流は行っている。	○	問題の発生があれば検討していきたい。今年度においては、家族同居が可能となり小規模多機能型サービス利用の運びとなった。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在ケースがないのでできていない。	○	問題の発生があれば検討していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・家族の方々が望むDrを主治医として支援している。	○	今後も利用者様・家族の方々意向を大切にしていきたい。

ゆうあいホームひだまりの家 A棟

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	常に医師への相談は行っている。	○	今後も医師への相談を密に行っていく。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護との交流を図ることで日頃の管理のうえで気軽に相談したり、指示を仰ぐことが出来ている。	○	今後も訪問看護との連携を密にして行く。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族及びDrとの面談をこまめに行い連携をとれている。	○	今後も家族・医師との連携を密にしていく。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	Drの病状説明を家族と共に聞き、家族、本人の意思を尊重し重視している。	○	今後も利用者様・家族の方々とのコミュニケーションを図っていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療機関との連携を重点をおいて取り組んでいる。	○	今後医療機関との連携を継続していきたい。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報交換は行っている。相手が望む情報提供に心がけている。	○	今後も情報提供に心がける。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保に努めている。個人情報の取り扱いには細心の注意を払っている。	○ 今後もプライバシー保護に努めていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来るだけ利用者様の意思を聞けるように環境をつくり、それに合った支援を心がけている。	○ 利用者様が話しやすい環境づくりをしていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりのペースを大切にしていきたいが、業務におされ職員に余裕がない場合もあるのが現状である。	○ 今後は、利用者様のペースに合わせて心の支援も充実を図って行く。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみはもちろんのこと、おしゃれに興味がある方にはそれぞれの好みに合わせたおしゃれをして頂いている。いきつけの理容室利用等の生活支援をおこなっている。	○ 今後も希望に添えるようにしていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査により合わせた料理の提供をしており、嫌いなものは提供せず代品を提供している。お手伝いを好む利用者様には必ずお礼を言って手伝っていただくようにしている。(テーブル拭き・皿洗い・下げ善等・掃除)。職員も利用者様と食事をしている。	○ 今後も定期的な嗜好調査をしていく。また、個々の持つ能力を生かし自分の位置の確保や笑顔が見たいから生活リハビリに力をいれていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒を除き、Drや家族の制限がないものは対応をしている。	○ 今後も利用者様・家族の方々の希望に対応して行く。利用者様からおやつ作り方を教えて貰い一緒に作る機会等も設けていきたい。

ゆうあいホームひだまりの家 A棟

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ誘導する機会を増やし、出来るだけご自分で排泄して頂けるようにしている。	○	徐々にオムツ減らしを行っていききたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる準備をし、本人の状態や希望にあわせ本人と相談したりしながら入浴をしていただけるよう支援している。	○	今後も利用者様の体調を見ながら支援していききたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間、休息の必要な方には、午後からの昼寝をしていただいている。居室の温度調節の気くばり・寝具への気くばりをしている。	○	今後も状況判断を的確に行い支援していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	フェイスシートの充実(備考欄に趣味・特技・生活歴等を記載)を図り個々の残存能力を引き出しているが、まだまだ不十分である。	○	これまでのアセスメント表及びケアプラン表を一新して今まで以上にリンク出来るように改善している最中である。原点は生活支援を柱としていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方には、ご自分で管理して頂き買い物等も自由に出来るようにしている。	○	今後も利用者様の能力に合わせて支援していききたい。
61	○事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行きたい所があればいつでも外出出来る環境を作っている。ひなたぼっこや洗濯物干し・散歩などの日々の外出も日頃より行うようにしている。	○	今後も希望にそえるように努力していき、地域密着を図っていききたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	出来るだけ支援しているが、まだまだ不十分である。	○	利用者の希望があれば対応していききたい。

ゆうあいホームひだまりの家 A棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望があれば、電話をしていることもあるが家族などの都合で電話ができていない利用者もいる。	○	手紙での利用者様から家族の方々への連絡をしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ホームの訪問が快く出来るよう日頃より居心地や雰囲気の良いホーム作り心掛けています。	○	今後とも気持ちよくアットホームなひだまりの家に努めていく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束委員会を立ち上げており、拘束についての勉強会を開催している。	○	出来る限り、減らしていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	洗濯物干しや花壇への水撒き、散歩や日光浴の機会を多く取り入れその間施錠しないように努めている。	○	日中、玄関の施錠解除の時間帯は増えてきたが日中全てとは達していない。又、冬季・天候等によっては施錠している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間帯は巡回により日中は居室で過ごされている方には時間により声かけをしている。	○	今後もこまめな巡回を行っていく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全利用者様ではないが、本人に話をしてこちらで預かりをしている。	○	もっと利用者様が納得できるよう話をしていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止については、各スタッフが最新の注意を払い支援している。問題が発生した場合はすぐに対処できるようにしている。	○	今後も最新の注意を払って支援して行く。

ゆうあいホームひだまりの家 A棟

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	訓練はしているが定期的ではない。	○	避難訓練や救急救命講座などによって応急手当を学ぶ機会を作りたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議・行事(納涼祭等)や地区の催し物参加や準備手伝いや日頃の地域の方々への挨拶にて地域の一人として溶け込んでいっている。	○	ひだまりの家を少しづつではあるが理解して頂いている。近所のグループホームとは万が一の場合はお互いが助け合っていく事を話し合っている。来年は、近所の方々と合同消防訓練を目指す。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族面談で現状説明をして情報交換を行っている。	○	今後も利用者様の現状の説明をこまめに伝えていく。
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1日3回検温を行っており、利用者様の表情・体調の異変時にはすぐに病院・家族の方々に連絡をとっている。	○	緊急マニュアルの徹底。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を作成して、全員が理解できるよう努めている。	○	今後も誤薬がないように、スタッフ同士注意していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表を作り、Dr指示によって対応している。水分補給・食事量。運動に心掛けている。	○	今後も、水分補給を特に気をつけて排便の状態観察を行っていく。又、出る出ないは別として決まった時間にトイレ声掛けや誘導を行っていく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケア・義歯の消毒をしている。	○	今後も利用者様の状態に合わせて、声掛け支援をして行く。

ゆうあいホームひだまりの家 A棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	出来るだけ好き嫌いがないようにバランスを考え提供している。又、利用者様の状態に合った食事形態の工夫(きざみ食、ミキサー食・お粥等)やこまめな水分補給を行っている。	○	利用者様の状態を見てその都度あった支援を心がけていく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	3ヶ月に1回,MRSA検査・半年に1回大腸菌検査を行っている。また日常でのうがい・手洗い・換気をこまめに行っている。	○	感染予防マニュアルに沿った対応に機敏に反応出来るよう心掛けている。又、感染症等の研修にどんどん参加し知識を増やしていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理に入る前の手洗いやエプロン使用を徹底し、調理器具の煮沸や消毒等をこまめに行っている。	○	今後も衛生管理には細心の注意を行い食中毒予防に徹底していく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇に花を植えるなど雰囲気づくりに心がけている。又、日々の挨拶を行い家族の方々や地域のかたがたの訪問を日々歓迎している。	○	玄関周りの清掃の徹底を更に図っていく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の飾り付けを季節ごとに変化させたりしている。又、家族の方々や職員持参のお花等を食堂に飾らせて頂き心穏やかにご自宅と変わらないアットホーム的な居心地を演出している。	○	今後も居心地の良い環境づくりを心がける。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	建物の構造上難しく出来ていないが、利用者間の居室にて談笑等されている。	○	1階の空いているスペースの利用を考えていきたい。

ゆうあいホームひだまりの家 A棟

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や使い慣れた品物を居室に置かれ生活をされている。本人が好む絵や人形等を飾ったり家族の写真を置くなどして明るい居心地のよい居室作りを心掛けている。	○	利用者様が居心地の良い落ち着いた居室になるように今後も支援していく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気はこまめにするようにしている。入室中の温度調節を個々に合わせておこなっている。	○	今後も利用者様の状態を見ながら支援配慮していく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ている。(バリアフリー・手すりなど)	○	廊下などに物を置きっぱなしなどにせず、整理整頓に勤める。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室に名前を掲示したり、ドアに利用者の顔写真を貼ったり、トイレの位置や浴室には場所を示す案内板を掲示している。	○	今後も利用者様の状態を見守りその時に必要な支援をして行く。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前は自転車道になっており、温かい日にはイスやベンチを利用して、「日光浴」やレクリエーションなどを行っている。また、前面道路がスクールゾーンとなっており学校帰りの生徒さん達や近所の方々との交流の場となっている。	○	今後とも継続していく。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

ゆうあいホームひだまりの家 A棟

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

子供110番の家に登録したり、小学校の開放教室に参加し子供達と利用者のふれあいの機会を作ったりと地域との交流に重点をおいている。また地域の夏祭りや町内清掃に参加する等ホーム内に来てもらうだけでなく、こちらから出向いていくことに力を入れている。